

海老名中学校 学校運営協議会 議事録

1. 日時 令和6年10月31日（木） 13:30 開会

2. 場所 海老名中学校 1階会議室

3. 出席委員

松島委員、奥泉委員、小田島員、大島委員、新美委員

梶山委員、河野委員、小坂委員

4. 会議の内容

○会長あいさつ

- ・合唱コンクール、体育祭にご招待いただき参加した。日常の指導の大切さはもちろんだが、行事で大きく成長した姿を見て感動した。同席していた高校校長である七海委員も中学生が整然と行事に一生懸命に取り組んでいる姿に感動されていた。

（1）授業見学

- ・当日は保護者授業参観であったので、保護者、教師、生徒の様子をご覧いただくために1年生と2年生の全クラスをご参観いただいた。（3年生は体育館で親子進路保護者会のため参観せず）

（2）授業の感想及び学校の現状

松島委員：校舎内を初めて拝見したが、校舎内の清掃が行き届いていてきれいだった。今は、プロジェクターで黒板に投影している資料をもとに授業を行っていることを知った。教室や廊下の掲示物にも生徒の個性が表れていた。

小田島委員：廊下がきれいになった。授業中に眠そうにしている生徒がいなかった。小学校時には手がかかる児童だった生徒が、今では友人から頼りにされていることを知り、大きな成長を感じた。

奥泉委員：昨日は小中一貫教育の一つとして生徒会代議員会を参観させていただいた。小中で連携して何か小学生を楽しませることができないかを生徒が一生懸命に話し合ってくれていた。特別なものを設定するよりも、日常生活の中で交流できるような機会が増えるとありがたい。

大島委員：以前と変わらず、落ち着いた様子で前向きに授業に取り組んでいた。素晴らしい生徒たちを更に伸ばすような指導を学校にお願いしたい。1年生の反応が鈍いように感じた。

校長：昔は魅力ある授業をしないと生徒がついてこなかった。海老名中の生徒は授業をしっかりと取り組むことができるので、そこに甘えている教師側の課題もあるのではないのかとも思う。また、プロジェクターを利用する授業が増え、穴埋め形式の授業が増えたことも授業の様子に変化をもたらした要因かもしれない。そうした反省から、文科省はアクティブラーニング等を取り入れた授業の必要性を唱えている。今後も魅力ある授業づくりを目標にして取り組んでいきたい。

(3) 学校評価アンケートについて

小坂委員：4年前から本校では教育D Xの一貫として、生徒・保護者共にグーグルフォームの質問に回答していただく形式に変更している。その後、現在では市内の他中学校も本校の方法を採用して実施しているようである。この方式の欠点としては、従来型のアンケート用紙の利用形式と比較し、回答率が低下する傾向がある。しかしながら、学校メールでの呼びかけやQ Rコードを読み取らなくてもフォームに回答できるような工夫をすることで向上させたい。

(4) 今後のコミュニティ・スクールの方向性について

「海老名中学区の教育力・地域人材の活用（キャリア教育を中心に）」

① 1 学年職業講話の講師を学区、海老名中卒業生等海老名中関係者に依頼した。

→学び支援課、小田島委員のご紹介等で100%達成することができた。新美委員にも講師を依頼している。

② 2 学年の職場体験の事業所を50%以上、海老名中学区、海老名中関係者で依頼した。

→教育支援課のリスト、青年会議所の紹介等で達成することができた。

③授業支援者を学区在住の方もしくは海老名中卒業生に依頼する。

→実技教科を中心に授業の支援者、特別講師を依頼する。

例、家庭科－調理実習の補助、被服の補助等

音楽－古典芸能の補助 お琴の演奏の指導等

*①②に関しては令和5年度より前倒しで実施している。③に関しては状況に応じて実施予定である。

(5) その他

・次回、学校運営協議会日時確認